

指導のポイント

- 授業のねらいの根底にある道徳的価値を生徒が一層主体的に考えられるようにします。
- 生徒が思考を一層深めたり、考えを整理したりできるよう、教師が意図をもってまとめた話をするのが大切です。

具体的事例

◎ 説話とは・・・

- ・あるまとまりをもった内容を、教師が生徒に話して聞かせる指導方法です。
- ・教師の人間性がにじみ出る説話は、生徒の心情に訴え、深い感銘を与えることができ、ねらいの根底にある道徳的価値を生徒が一層主体的にとらえ、人間としての生き方についての自覚を深めることができるものです。

説話の素材例

ア 教師の体験談や願い



ねらいにかかわるような教師自身の思い出や体験、そのときの感じた気持ちや今思うことなどを語ります。

写真や思い出の品物などを見せながら話すのも効果的！

教師自身の人間としての弱さや失敗談などを話すことで生徒との信頼関係が増すこともあります。

イ 生徒の日常生活における身近な話題



ねらいにかかわる身近な出来事についてふれながら、問題を投げかけるのも一つの方法です。

新聞、雑誌、テレビなどで取り上げられた話題なども活用できます。

「どうすればよかったのかな？」「何が大切だったのかな？」など投げかけて、そのまま答えを出さずに終わることで、生徒により深く考えるきっかけを与えることもできます。

ウ 生徒の関心や視野を広げる時事問題

- ・新聞のコラム
- ・雑誌の切り抜き
- ・インターネットの検索

ねらいに合わせて、様々な素材を日頃から準備しておくといいですね。

エ ことわざや格言

- ・ことわざや言葉
- ・様々な詩人の詩
- ・偉人の言葉

オ 心に残る標語

- ・生徒が作成したもの
- ・ポスターなどで掲示されているもの

カ 地域の自然や伝統文化にかかわる話題

- ・写生会の絵(先輩や卒業生のものなども)
- ・地域の森や川など自然の写真
- ・伝統芸能などの映像や音声
- ・校舎や学校行事などの歴史やエピソード



写生会での体育館の絵



学校行事(田植え)風景

キ 「私たちの道徳」(文部科学省)

- ・内容項目ごとのコラムや格言
- ・自分の考え等を記入する欄



「私たちの道徳」を活用している様子

留意点

- 説話の効果が大いことを鑑み、話題の選択、内容の吟味、話の進め方やまとめ方などを工夫することが大切です。
- 生徒への叱責、訓戒や行為の押しつけにならないように注意しましょう。「～だから～」ということです。わかりましたか?」などの表現は避けましょう。
- 教師自身も生徒とともに、人としてよりよく生きることについて、真剣に考え、悩み続ける「同じ一人の人間」である、という気持ちで語ることが大切です。
- 生徒自身の中にある本来の人間性を引き出し、自分自身の生き方について、自ら深く考えようとする姿勢をはぐくんでいくように心掛けましょう。